

航空自衛隊の次期輸送機 C-2配備で地元同意



昨年9月、美保基地で行われた見学会に飛来したXC-2



日本海新聞 平成24年1月18日掲載

本年1月17日、島根県庁で溝口島根県知事から辰己局長に対して、C-2の機種変更に同意する旨の回答書の手交と5項目の要請がありました。辰己局長は、自衛隊機の安全運航、生活環境の整備や地域振興策など、要望に対する防衛省の考えを説明しました。

地元調整状況

■ ■ C-2 配備 ■ ■

中国四国防衛局は、昨年4月27日に鳥取県、島根両県に対しC-2への機種変更の協議を申入れた以降、地元関係自治体への説明や住民説明会などを実施してまいりました。



平井鳥取県知事(右)から回答書を受ける渡辺副大臣(左)

昨年11月2日、平井鳥取県知事は渡辺防衛副大臣と会談し、C-2配備の同意回答と5項目の要望を行いました。渡辺副大臣は、要望はしっかりと受け止め、誠意を持って対応する旨説明をしました。



松浦松江市長(左)から要望を受ける辰己局長(右)
山陰中央新報 平成23年12月15日

昨年12月14日、美保防衛事務所において辰己局長と松浦松江市長が面談しました。

松江市長からは、基地周辺における生活環境の整備並びに地域振興に係る4項目の要望書が提出され、辰己局長は、地元の負担軽減のため、ご要望を踏まえつつ、環境整備法等に基づき引き続き誠意を持って対応する旨説明をしました。

※ 地元説明会実施結果

境港市	2回	約110名
米子市	6回	約210名
松江市	8回	約230名
安来市	2回	約90名
計	18回	約640名



松江市八束地区



松江市美保関地区

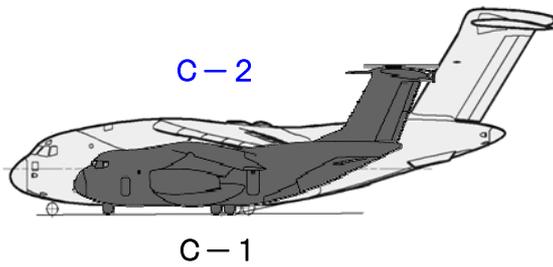
年 月 日	調 整 状 況
平成23年4月27日	・鳥取県及び島根県に対し協議申入れ
6月6日 ～10月19日	・境港市中浜地区各種団体連絡協議会を皮切りに地元説明会を実施 (計18回 約640名)
7月21日	・中四局はXC-2の騒音データを鳥取県、島根県及び関係4市1町に対し通知
8月26日	・関係2県4市による岐阜基地におけるXC-2現地視察(70名)
9月25日	・美保基地におけるXC-2試験飛行(約300名)
10月11日	・境港市長が鳥取県知事に対し同意回答
10月19日	・米子市長が鳥取県知事に対し同意回答
11月2日	・鳥取県知事が防衛副大臣に対し要請 ・鳥取県知事が中四国局長に対し同意回答(11月18日 鳥取県知事へ文書回答)
11月7日	・安来市長が島根県知事に対し同意回答
12月27日	・松江市長が島根県知事に対し同意回答
平成24年1月17日	・島根県知事が中四国局長に対し同意回答(1月23日 島根県知事へ文書回答)

C-2の概要

航空自衛隊美保基地に配備されているC-1は、運用開始から約40年を経過、老朽化のため平成20年代後半から運用が終了し始めるため所要機数を割り込むことが見込まれています。

また、各種事態等において他部隊等への迅速な支援を実施し得る輸送能力を強化するとともに、国外任務により積極的に取り組む必要があることから、順次後継機のC-2に更新していく必要性が生じています。

C-1との機体諸元比較

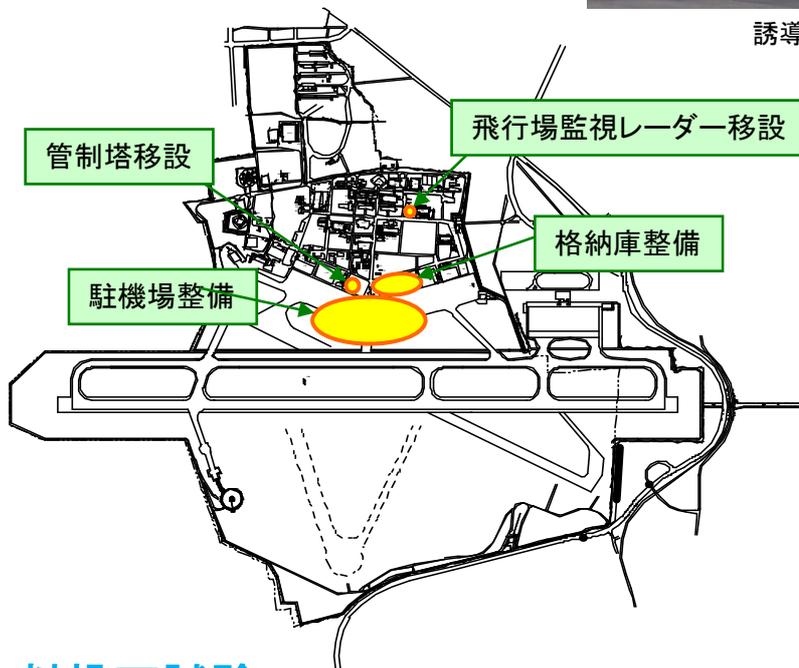


	C-2	C-1
全幅	約44m	約31m
全長	約44m	約29m
全高	約14m	約10m
基本離陸重量	約120t	約39t
最大積載量	約30t	約8t
航続距離	約6,500km (12t積載時)	約1,700km (2.6t積載時)



誘導路を走行するXC-2(左)とC-1(右)

関連施設整備



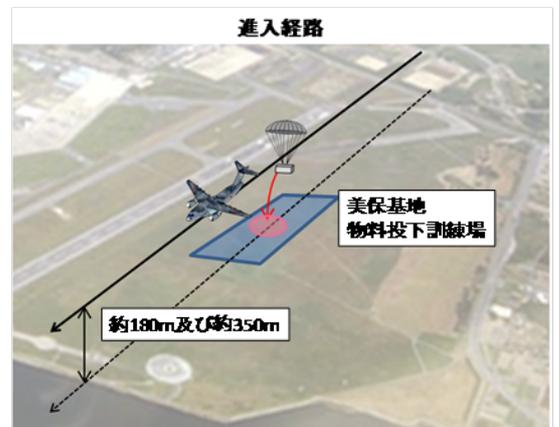
C-2は、平成26年度から27年度にかけて美保基地に2機配備することとしており、これに伴う関連施設として、今年度から格納庫の建替整備を行うとともに、管制塔及び飛行場監視レーダーの移設を行い、来年度以降には駐機場の整備を計画しています。

物料投下試験

C-2配備に向けた各種試験の一環として、美保基地で物料投下試験が行われます。

試験期間：平成24年2月中旬～3月、8回(日)程度

試験概要：物料投下訓練場の上空を飛行し、1回(日)あたり1～8梱を投下



■■ 防衛問題セミナー ■■

中国四国防衛局は1月12日、岡山県の後援を得て、第18回防衛問題セミナーを岡山市のさん太ホール（山陽新聞本社ビル）において開催しました。

岡山市での開催は平成20年11月以来、今回が2回目で、当日は約200名を超える多数の皆様が来場され、熱心に聴講されました。



開催の挨拶を行う辰己局長



会場受付



さん太ホール

今回の防衛問題セミナーは「**自衛隊の国際協力開始20年にあたって**」をテーマとして、第1部において講演を、第2部においてパネルディスカッションをそれぞれ行いました。

第1部

第1部では、防衛省運用企画局情報通信・研究課 中野課長が、防衛省・自衛隊がこれまでに実施してきた国際協力活動の変遷や現状、今後の課題などについて講演を行い、次に自衛隊高知地方協力本部長 杉本1等陸佐が、イラク・サマーワでの自衛隊の活動について、実体験に基づく講演を行いました。

自衛隊の国際協力開始20年にあたって



講演の様子



中野情報通信・研究課長

主な活動実績

- 平成3年4月～同年10月 海自掃海部隊をペルシャ湾に派遣
(掃海艇4隻、掃海母艦・補給艦各1隻 計6隻 約500名)
- 平成4年9月～平成5年9月 陸自施設部隊等をカンボジアに派遣
(停戦監視、道路・橋等補修 約1220名)
- 平成15年12月～平成21年2月 陸自施設部隊等をイラクに派遣
(給水・医療支援、学校・道路補修等 約1240名)

イラク・サマーワでの自衛隊の活動



杉本高知地方協力本部長



講演の様子

杉本1等陸佐は、平成17年1月から約7カ月にわたり、イラク復興業務支援隊第3科長（作戦幕僚）として従事したイラク人道復興支援活動の概要を、約80枚のスライドと10分間のビデオを使って、国際貢献の意義、現地での医療支援、復旧・整備、給水支援などの活動状況や活動の成果について、わかりやすく講演して頂きました。

第2部

パネルディスカッション

第2部では、中野課長、杉本1等陸佐と、ペルシャ湾の掃海活動で活躍された海上自衛隊呉警備隊司令 桂1等海佐、国際関係論等安全保障の専門家である広島大学大学院 永山准教授を加え、当局辰己局長をコーディネーターにパネルディスカッションを行いました。

自衛隊の国際協力に関して様々な視点から議論が交わされるとともに、聴講者からの質問に対し、パネラーの方々がわかりやすく説明しました。



パネラーの方々



パネラーに質問する聴講者

聴講された方々からは、「自衛隊の国際協力の重要性を改めて理解した」、「海外で活動することは大変だと感じた」、「現地での活動状況など普段知ることができないことを知ることができた」などの意見や感想を頂きました。

■ ■ 地元開催行事に参加 ■ ■

1月9日に山口県和木町で第14回蜂ヶ峯クロスカントリー大会が、また、2月5日には山口県周防大島町で第28回サザン・セト大島ロードレース大会が開催されました。これらの大会は、米軍再編交付金を基金として大会の運営が行われているものです。

小学生から一般まで多くのランナーが参加する中、当局からも、辰己局長をキャプテンとする有志が参加し、日頃の練習の成果を発揮し、地元自治体の首長らと一緒に完走して大会を楽しみました。

蜂ヶ峯クロスカントリー（山口県和木町）

参加者数：約800人

種目：10km、5km、2km、1.5km



元気にスタートする小学生ランナー



開会式



大会に参加した当局メンバー



一般ランナーのスタート



サザン・セト大島ロードレース（山口県周防大島町）

参加者数：約3700人

種目：ハーフ、10km、5km、2km

（日本陸連公認コース）



開会式



大会に参加した当局メンバー



小学生から一般まで一緒に快走



■ ■ I W A K U N I 日米交流合同コンサート練習 ■ ■

「I W A K U N I 日米交流合同コンサート」の開催に先立ち、1月18日岩国市民会館及び2月8日米海兵隊岩国航空基地において、岩国市立岩国中学校及び川下小学校の生徒と、米軍岩国基地ペリー・ハイスクール及びペリー・エレメンタリースクールの生徒が合同で練習を行いました。



練習開始にあたって辰己局長が挨拶

練習開始にあたって、辰己局長は「これからの日米関係を支える若い世代が、音楽を通して友情と絆を深めて欲しい。」と挨拶をしました。



演奏の練習



踊りの練習



合同練習が終わって日米の生徒たちが懇親を深めました。

生徒達は本番に向けて、熱心に踊りや演奏の練習をし、参加した生徒からは、「言葉や文化などの違いはあるけれど、音楽を通じて気持ちが通じた」、「合同で練習して、貴重な経験ができ楽しかった」などの感想が寄せられました。

「I W A K U N I 日米交流合同コンサート」は、米海兵隊岩国航空基地の関係者と周辺の住民の方々との相互理解を一層深めるため、昨年に引き続き当局が実施するもので、本年度は、2月18日に岩国市の岩国市民会館で開催。

■ ■ 日米共同方面隊指揮所演習 ■ ■

平成23年度日米共同方面隊指揮所演習(日本)が、平成24年1月24日から2月6日までの間、伊丹駐屯地等で実施されました。



この演習は、通称YS（ヤマサクラ）と呼ばれ、陸上自衛隊及び米陸上部隊が、それぞれの指揮系統に従い、共同して作戦を実施する場合における方面隊以下の指揮幕僚活動を演練し、その能力の維持向上を図ることを目的とした図上演習で、昭和56年度から実施され、中部方面隊が同演習を実施するのは、5年ぶり3回目となります。

演習には、中部方面隊等から約4,500名が、米太平洋陸軍司令部、在日米陸軍司令部、第8軍、米海兵隊等から約1,500名が参加し、指揮官及び幕僚等が指揮所内において地図等を使用し、計画・命令の作成及び調整等を行い、演習を通じ相互理解と意思疎通を深め、相互運用性の向上を図ったところです。

中国四国防衛局は、1月31日から2月4日までの間、地方調整課長（演局長）、防衛補佐官ほか十数名が演習に参加し、伊丹駐屯地内に設置されたテントブースにおいて、24時間体制で中部方面隊及び米軍と調整を図りつつ、新たな用地の提供や米軍による事故等における事務手続の確認などを行いました。



図上演習を行った日米の担当者



テントブースで作業を行う局職員

■■■ 海賊対処活動 ■■■

ソマリア沖・アデン湾海賊対処派遣隊帰国



一川防衛大臣の訓示を代読する泉呉地方総監



帰国した「うみぎり」(左)と「さみだれ」(右)

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動のため、第9次派遣隊として民間船舶の護衛に当たっていた護衛艦「さみだれ」と「うみぎり」が任務を終え、昨年12月3日に海上自衛隊呉基地に帰国しました。

両艦は、6月20日に呉基地を出港。7月15日から11月3日までの間、船団護衛を34回実施し、延べ256隻を護衛しました。



手作りのうちわで出迎え

■■■ 海上自衛隊幹部候補生学校の卒業式 ■■■



卒業証書、修了証書の授与



来賓、家族らの見守る中を行進

昨年12月21日、第109期幹部予定者課程卒業式及び第71期公募幹部課程修業式が、杉本海幕長臨席のもと多数の来賓、ご家族、職員、在校生ら約500名が出席し挙行されました。

学校長から幹部予定者課程学生に卒業証書、公募幹部課程学生に修業証書が一人ひとりに手渡されました。卒業生は卒業証書、修業生は修業証書を左手に、表棧橋まで来賓、ご家族、職員、在校生らが見守る中を胸を張って行進しました。

■■ 徳島駐屯地（仮称）の整備 ■■

中国四国防衛局は、陸上自衛隊第14旅団の改編に伴い、高知駐屯地（高知県香南市）から徳島県阿南市に移駐してくる施設中隊のために、新たに新設する陸上自衛隊徳島駐屯地（仮称）の建設工事を進めております。

平成21年度より始まった建設工事は、本年1月末に、庁舎や隊舎、倉庫など、駐屯地の様々な主要施設が完成しました。

現在は、本年3月末の駐屯地開設に向け、外構工事などを進めているところです。



駐屯地完成予想図



庁舎



隊舎



倉庫・整備場

徳島駐屯地（仮称）は、徳島県阿南市那賀川町小延地区に位置し、敷地面積が約11ヘクタール、徳島県における自衛隊による災害など各種事態への対処能力を向上させ、当該地域において、より実効的な防衛・警備を可能にします。また、災害時には復旧などの土木工事を行う施設部隊の存在は地域に対する安心感を与えるものと期待されています。

■ ■ 米軍と中国四国防衛局が共同で 福祉施設を清掃 ■ ■



2班に分かれて清掃



隊員らと入居者との歓談

昨年12月17日、米陸軍川上弾薬庫が所在する東広島市内の2か所の介護施設において、米陸軍第83兵器大隊のジェームス・P・フーパー司令官夫妻をはじめとする12名の隊員らと当局藤代企画部長や東広島市大橋危機管理課長ら日本側5名が2班に分かれ、それぞれの施設で屋外での窓拭きや溝掃除、除草などを行いました。

清掃後は、隊員らと入居者が一緒に食事をしながら歓談し、一緒にクリスマスソングを歌うなどして、楽しい一時を過ごしました。

入居者の方々からは、「きれいになった施設で新年が迎えられる、大変うれしい。また来てほしい。」との声が寄せられました。

■ ■ 岩国市立徴古館で旧海軍ゆかりの品を展示 ■ ■

写真提供：岩国市観光振興課



山本五十六長官の書と
連合艦隊最後の打合せをした際の集合写真



展示場の様子

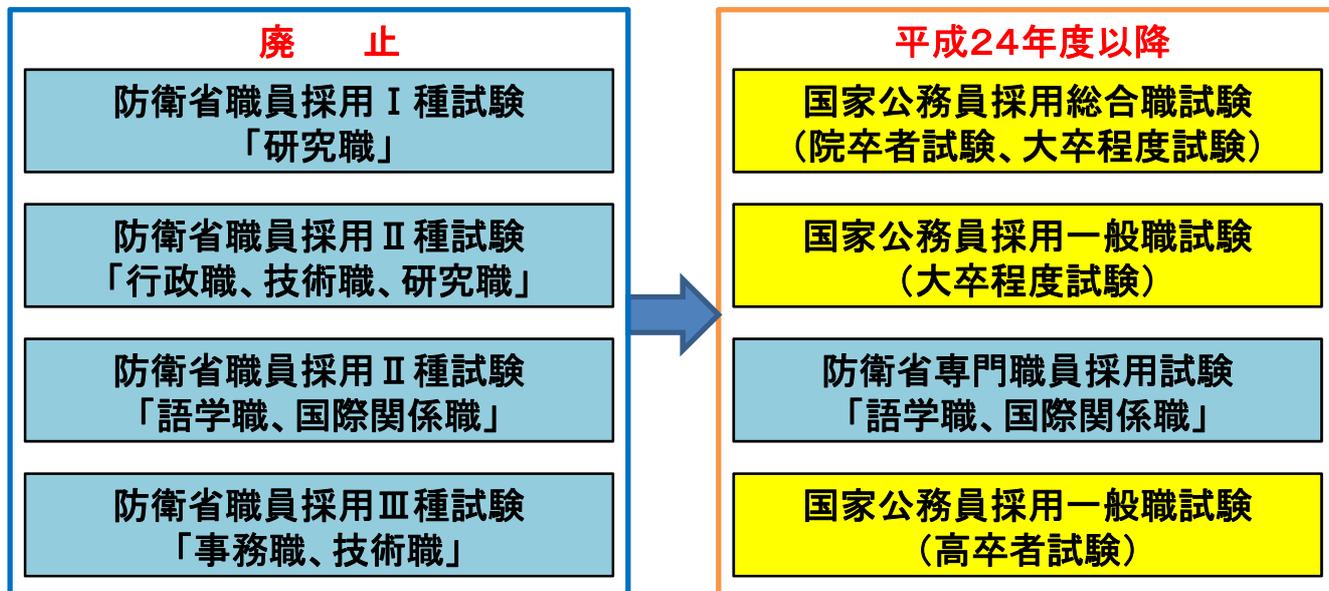
海上自衛隊第31航空群（司令：小松龍也海将補）は、岩国市の要請により、海上自衛隊岩国航空基地が保管している旧海軍や海上自衛隊の貴重な資料を岩国市立徴古館において平成23年12月4日～平成24年1月22日の間、展示しました。

展示は、東郷平八郎（元帥海軍大将）や山本五十六（連合艦隊司令長官・元帥海軍大将）に関する資料、救難飛行艇の史料・模型など143点で、この期間は例年に比べ2倍以上の来館者がありました。

平成24年度から防衛省職員の採用方法が変わります！

防衛省では、これまで、国家公務員採用試験とは別に、防衛省職員採用Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ種試験を行っていましたが、平成24年度から、防衛省職員採用Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ種試験を廃止し、人事院が新たに導入する国家公務員採用総合職試験及び国家公務員採用一般職試験の合格者から採用を行います。

なお、防衛省職員採用Ⅱ種試験で行っていた試験区分「語学」及び「国際関係」については、引き続き、防衛省が行う防衛省専門職員採用試験の合格者から採用を行います。



お問い合わせ先：防衛省大臣官房秘書課採用試験室
TEL:03-3268-3111 内25001, 25002

編集後記

今年最初の広報誌「中国四国」をお届けします。

今回は、昨年4月から地元協議を進めていました航空自衛隊美保基地配備のC-1輸送機から次期輸送機C-2への機種変更につきまして、地元の皆様のご理解を得て、同意を得ることができましたことから、特集を組みました。

中国四国防衛局は、今後とも充実した誌面作りに取り組んでまいります。

皆様のご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

写真は、中国地方最高峰の大山で、伯耆富士とも呼ばれる日本四名山の一つです。